

地域主体による保護林の保護活動

嵯山の取組み

嵯山自然保護協会

会長 斎藤雅樹

芦別市

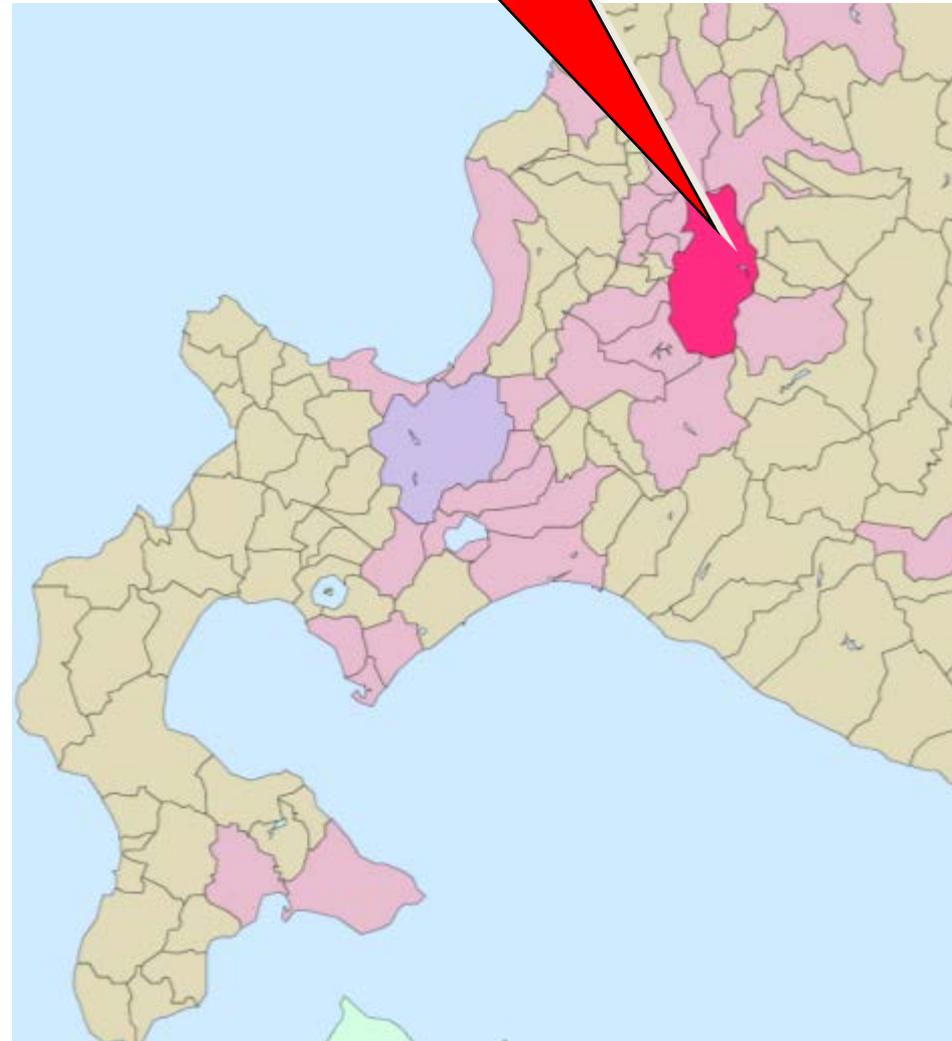
【概 要】

石炭産業で栄え、昭和33年には人口のピーク7万5千人を数える。平成4年の炭鉱閉山とともに人口が激減。現在の人口は1万6千人。昨年5月に高齢化率が40%に達した。

内陸部に位置するため、気温の年較差が非常に大きく、四季の変化が明瞭な地域。8月最高気温の平年値は、27.1℃（1981～2010年の平年値）と道内で一番高くなっている。

全国の都市部の中でも広大な面積（865k㎡）を持ち、その約88%が森林。豊かな自然と澄みきった夜空を生かし、昭和59年に「星の降る里」を宣言しました。

「星の降る里・芦別」をキャッチフレーズに、観光のまちづくりを目指しています。



芦別岳方面からの雌山東面





**上空から見た南面
(ヘリコプターより)**



**岩壁東基部の踏
み跡**

**(岩壁と樹木帯
に希少植物が
群生していた)**

蒼月峰近辺の尾根筋に現れた無残な踏み跡



蒼月峰北部の盗掘跡



1995(H7)年に山中に設置した保護啓蒙の看板

1995(H7).6 設置

峠山に登山される皆さんにお願い

この山には石灰岩質の固有植物が多く繁茂しておりますが、残念なことに近年の入山者増加による踏み荒らしや、心ない人びとによる盗採掘などで絶滅の危機に陥っている植物が見られます。

素晴らしい峠山を守るため、以下のことを守って入山して下さい。

- 1、現状の踏み跡以外に立ち入らないこと。
- 2、一切の植物・岩石の持ち出しをしないこと。
- 3、ごみなどを残して行かないこと。

お気付きの点については下記まで連絡下さい。

芦別市本町1136番地 ☎01242-2-4593 芦別山岳会事務局

1999(H11)年嵯山自然保護協議会開催



パトロールハウス(第1ゲート手前)



**1999 (H11) 年6月設置の第1ゲート
(設置直後、何度も破壊された)**



平成26年5月15日に実施された抽選会(芦別市役所)



“尾根筋(植生踏み付けと転落の危険性を考慮して)”を沢ルートに変更“五の沢(転落・沢登未経験な未熟な参加者に配慮して)”に更に変更する東側の“扇沢”にルートを変更。水を漕ぐことで外来種植物の侵入を防御した



全く道もない、滑る浮き石と倒木に覆われた”扇沢ルート”





参加者の方からの提案で、セイウタンポポやシロツメクサ等が摘みとられた



ボランティアによる外来植物の草刈り作業





2013 06 09 08 10

レブンコザクラ(サクラソウ科:赤系)
中部岩峰群から上に多い



アズマギク(キク科:淡紅系～赤紫系・白系)
赤紫色と淡紅色が混成していて北部岩峰群に多い
完全に色花であるが、他色との混成もある





オオヒラウスユキソウ(キク科:白系)

全山の岩壁や岩礫帯に見られるが、近年激減してきている



トチナイソウ(サクラソウ科:白系)

岩壁の裂け目に根を張る小さな花で激減してきている



**チョウノスケソウ(バラ科:白系)もあちらこちらに
葉がギザギザで特徴的。中央岩峰群の一部で見られる**



**極めて狭いゾーンで咲き誘うキバナノアツモリソウ(ラン科:黄系)
超絶滅危惧種であり、ごく限られた数メートル四方の範囲にしかなく、1999年には一輪しか咲いてなかった希少植物の代表である**



キリギシソウ (キンポウゲ科: 白系)

固有種植物で激減してきているものの筆頭

あまり強烈な陽射しは好まなく、極く一部にしかない





**1999 (H11) 年、
入山制限時の
永緑峰北部の
踏み跡。
岩壁のオオヒ
ラウスユキソ
ウは、ほとん
ど死滅状態に
なっている。**



2010(平成22)年の 状況

1999(H11)年、
との11年目を比
較すると、かつて
の踏み跡はわか
らなくなっている。



**岩壁基部につ
けられた踏み付
け跡に戻ってき
たセンボンヤリ
(ムラサキタンポ
ポ) (キク科:紅
紫色) 全山に散
在し、日当たりの
いい場所に咲く**

10周年自然保護フォーラム開催

嵯山入山制限10周年自然保護フォーラム

嵯山の植物的自然
子孫に残すべき大切な宝
(2008. 10. 5、芦別市)

佐藤 謙
(北海道大学)

基調講演
「嵯山の植物的自然は
子孫に残すべき大切な宝」
講師 北海道大学 教授
佐藤 謙 氏





ご清聴ありがとうございました